



## バスの中から見える近未来

修学旅行中のバスの中、入江先生がタブレットをもって子どもたちに話しかけています。「今、長崎から佐賀へ移動しています。みんなにインタビューしてみたいと思います。修学旅行はどうですか？」

「みんなと過ごすことができたので楽しかったです。」

「修学旅行、最高。イエーイ。」

「勉強は大変だけど、部屋でみんなと過ごして楽しいです。」

「松尾（語り部）さんの話も聞けたし、お料理もおいしくて最高です。イエーイ。」

これは、バスの中から学校へ実況中継した時の様子です。今年の4月からタブレットが導入されました。その中には、遠隔地でもタブレット同士で話ができるアプリが入っています。

そこで、初めての試みとして修学旅行の現地から給食時間に合わせて実況中継を試みたわけです。放送担当の5年生からの質問にもきちんと答えることができ、思いの外スムーズに進みました。1年生から5年生も、各教室のテレビで6年生の様子を見て喜んでいました。

これから見学旅行などの様子もリアルタイムで学校に知らせることができます。また、ゲストティーチャーとして学校にお招きできなくても、タブレットを活用することで子どもたちに話をしてもらったり、インタビューしたりすることも可能になります。

タブレットを含め、ICT環境を、どう学習に生かしていくのか、授業をどう改善していくべきなのか、これから更に検討していかなければなりません。

鉛筆やノートのような文房具の一つとして子どもたちがタブレットを使いこなす。そんな状況がもうすぐそこまできているように思います。

